

あびの文化

発行人 大洋 美崎
我孫子市 高野山
250-23
04(7182)
0861

市民のチカラまつり2018 盛況裏に終了

友好四団体で嘉納治五郎の「展示」

九月二十二日(土)、二十三日(日)の両日、けやきプラザ2階ホール、その他で「市民のチカラまつり2018」が開催され、盛況のうちに終了した。二日間で約二千人(延べ)を超える来場者があった。

今回、当会としては初めての試みとして「我孫子市史研究センター」、「あびのガイドクラブ」、「ふるさと我孫子ガイドの会」などとともに4団体で共通テーマ「嘉納治五郎」の展示を行った。一緒に連携した団体とは別途「郷土資料館」の建設に向けての会議を定期的に実施し情報交換をしている友好団体でもある。



期間中は我孫子市以外からの来場者も多く、昨年比で「親子連れの方々が増えたように見えた。」

4団体が並ぶブースの上の壁には「我孫子に嘉納治五郎の銅像を建てませんか!!」の横断幕(紙)が張り出され、当会は「嘉納治五郎の生い立ちと分野別業績」について項目毎に五輪のマークの色を使用して区別して表示。手書き、手作りの展示(左上写真)は横幅5メートルにも及び会場の中でもひととき目を引いた。

星野我孫子市長 青木副市長も当会のブースに立ち寄り、熱心に説明に聞き入っていた。



川村学園女子大学 藤原先生の講演会も実施

「市民のチカラまつり」開催中の九月二十三日(日)、藤原昌樹教授と美崎会長の講演を実施した。

- ① 十時~十一時 「オリンピックと嘉納治五郎」
講師 川村学園大学教授 藤原昌樹氏
- ② 十一時~十一時半 「我孫子と嘉納治五郎」
講師 我孫子の文化を守る会会長 美崎大洋氏

我孫子北まちづくり協議会と協働イベント

「嘉納治五郎とオリンピックピックと我孫子」

「講演会」と「まち歩き」を近隣住民に企画

日時 11月10日(土)

場所 並木本館ホールなど

13時~14時30分「講演会」講師 伊藤一男氏

(我孫子の文化を守る会副会長)

・14時45分~16時30分「まち歩き」

担当 我孫子市史研究センター

講演会終了後に解説付きのまち歩き(要予約)。我孫子駅南口周辺の嘉納治五郎関係の史跡を約1時間探訪する。

主催 我孫子北まちづくり協議会
協力 我孫子市史研究センター、文化を守る会
(この記事は前号で掲載済み)

第11回ベイ・東葛飾エリア観光ボランティアガイド交流会

観光ボランティアガイド交流会

昨年、我孫子市のガイド3団体が主催開催した「ベイ・東葛飾エリア観光ガイド交流会」が、今年も流山市の主催で開催される。

日時 11月27日(火)

場所 流山市文化会館・中央公民館

内容 ①テーマ別交流会(交流会のあるべき姿、お客様を増やす智恵、ガイドの老齢化と増員対策、ガイド時の安全対策)
②史跡巡り

平成30年度統一クリーンデーのお知らせ

美しい手賀沼を愛する市民の連合会(美手連、当会も所属)は流域住民へ手賀沼浄化意識を呼びかけることを目的として、毎年「手賀沼統一クリーンデー」(手賀沼ふれあい清掃)を開催しています。

ご都合のつく方はご参加ください。今年日程は次の通り。

日時 12月2日(日)9時から11時まで

集合場所 手賀沼公園多目的広場

集合時刻 8時30分から8時55分

目印 当会担当役員が「我孫子の文化を守る会」の「緑の旗」を掲げています。

清掃作業の内容 「ゴミ」の分別①可燃ゴミ②不燃ゴミ

の2種類に分けて集める。

◎一人ひとりの力で美しくきれいな手賀沼!

リレー連載「白樺派と私」
『我孫子と白樺派と私』

稲葉 義行

「白樺派について、何か一文を」との依頼でしたが、白樺派について深い知識があるわけでもなし、何を書こうか悩みました。

悩んだ末、白樺派と関係が深い我孫子のことから書き出そうと考えました。

先ず、私と我孫子との係わりからお話します。我孫子という街を知ったのは、私立中学に入学(昭和三十四年)して初めての親友が、我孫子から通学していたことでした。当時は列車の本数も少ない中、早稲田まで通うのは大変なことであろうと思っていました。その友人は、我孫子駅前の新聞販売店の息子で、高校一年の時、新聞配達中交通事故で亡くなってしまいました。告別式の当日、友人と数名で葬儀に参列するため、初めて我孫子の駅に下り、葬列に従ってお寺まで行ったことを思い出します。

その後、我孫子とは縁が切れていきましたが結婚をし、家族が増えて池袋の家では手狭になったこと、また、会社からの帰宅時間が遅いことなどを考え、移転先を物色していましたが、我孫子で住宅開発をしていることを知り、両親共々我孫子に転居してきました。現職中は自宅と職場の往復で地元を向ける余裕がなかったので、白樺派との関係が大変深い街であることを知りませんでした。

退職後、地元のことを知りたくなり、「我孫子の文化を守る会」に入会しました。白樺派に興味があつて入会したわけではなく、ただ、地元の方達と懇親を深められれば良いと思っていました。

白樺派については、学習院の関係者が集い、「白樺」という文芸雑誌を発刊し、同人には志賀直哉、武者小路実篤、有島武郎等がいることは知っていました。高校生の時、有島武郎の「小さき者」、「生まれ出づる悩み」を読みました。当時、私は「太平記」、「保元物語」や「平治物語」等の戦記物に興味があり、躍動

感のある文章に魅かれていましたので、白樺派の作家のみならず同人誌に載る作家には興味を持ってませんでした。しかし、「我孫子の文化を守る会」に入会して史跡散歩、文化講演会等に参加しているうちに白樺派同人の文章ではなく、作家の周辺であった事案に興味を持つようになりました。

その中の2、3を挙げますと

その一つは、有島武郎の屋敷は東京都千代田区の麹町にあつて(現在は、落語家の故三代目三遊亭圓歌の自宅となつている)、向かい側に里見淳の自宅があり、毎朝、有島が里見に朝の挨拶をしていたそうです。

その二は、志賀直哉の知遇を得て志賀を師と仰いでいた阿川弘之の随筆「志賀直哉」に掲載の「女人伝説」及び「昭和六十二年五月号新潮に掲載の「花がたみ」には、志賀直哉の末娘貴美子さん(志賀の短編「末の児」のモデル)、別名「志賀家のおすたさん」(「おすたさん」は昭和天皇の末児清宮貴子さんの愛称)のことが書かれており、自由奔放な方で癩癩持ちの志賀直哉もこの末娘をこよなく愛していた事が窺われます。

また、明治四十四年我孫子に別荘を持った嘉納治五郎は、甥の柳宗悦に我孫子への移住を勧め、それにより、志賀直哉、武者小路実篤等の「白樺派」の文人が集い、「文化都市我孫子」の礎が築かれました。

この様に、私の中では、「白樺派」に関しては、その文芸作品とは別に、広範囲に知識が広がっています。これからもあらゆる機会を捉え白樺派の事績を追っていきたく思います。

最後に、嘉納治五郎は、白樺派の文人が我孫子に集うきっかけを作っただけでなく、白山地区に嘉納後楽農園を経営し、近代的な農業経営を実践したり、地域の人々とも懇親を深め、我孫子をこよなく愛した我孫子にとっては大事な人でした。「我孫子の文化を守る会」では、その業績を市民の皆様を知って頂き嘉納治五郎が我孫子を愛し過ごしたことを誇りと思ひ永く歴史にとどめるため嘉納の過ごした別荘跡地に銅像を建立する計画を進めております。皆様の

協力をお願い申し上げます。

もう一つの嘉納治五郎先生顕彰活動
―ひ孫 坪内園子さんとの出会いと交流(第2回)―

平林 清江

2、交流のはじまり

メール通信が始まった経緯とその経過

ここでは、坪内さんと筆者が我孫子で出会い、やがて直接メール通信をすることとなった経緯と、またその経過について記そう。

5月19日、世田谷文学館友の会事務局から筆者あてに、「坪内さんの原稿を一読し、チェックをするように」とのご依頼をいただいた。坪内さんと初めてお会いして一月余が経過した頃であった。

既にご覧のように、坪内さんの原稿は端正で、とても読みやすいものであり、さすがと思わせられる文章であった。内容にもオリジナリティーが光っていて、新発見もあり、我孫子の正及昭昭和期の資料として、貴重なものであった。

非の唱えようの無い原稿を、何故「チェックをするように」と、早々に送信して来たのであろうか、この時は不思議な思いがしたことであった。

しかし、これが、坪内さんと筆者を結ぶための、事務局による「深謀遠慮」であったということに気づいたのは、随分と後のことである。

さて、この坪内さんの所感文について、小学生だった頃の天神山での暮らしの中の思い出や、また今回、どのような思いで我孫子を訪ねられたのか、など、同年頃の女性として強い関心を抱いた。

そこで、5月28日、メールにて「ご挨拶」という一文を送ったのである。

引用するには長いので、要約を記しておくとする。

ご挨拶文を送信(平成29年5月28日)

「四月の我孫子文学散歩では、思いがけずお目にかかれて誠に嬉しく思いました。また、坪内さんの所感文を拝見して、当時の我孫子での暮らしぶりなどに興味を

抱いた。機会があれば、語っていただきたいと願っている。さて、我孫子は、生涯学習の盛んな土地柄で、多くの人々が各自のテーマを持ち研究に熱心に取り組んでいる。ことに、「我孫子に住んだ優れた先人たち」の研究には、強い関心が集まっている。

我孫子在住白樺派三人の研究はもとより、嘉納治五郎先生、杉村楚人冠、村川堅固等については、建物や居住跡、さらに資料などが残されていることもあって、特に人気の研究テーマとなっている。

このような気風の土地我孫子ですが、また、是非、二度目のお訪ねを願う。

昭和40年頃からの都市開発により、手賀沼の埋め立て、崖地の整備などで、ずいぶん風景が変化してしまつたので、少女時代の記憶を辿られるのも大変かと思われる。何かお手伝いできることがありましたらお申し付けください。また、世田谷文学館友の会の講演などでお会いできるのを楽しみにしています。

さらに、この「挨拶」に対して、

「我孫子の皆様の熱心さは、一日訪れただけで感じ取ることが出来た。【榎西雄介氏のブログ】(注8)が読みたい」とのメール(5月29日)が、折り返し送信された。

既に鬼籍に入られた榎西氏は、我孫子を愛し、嘉納治五郎先生をこよなく尊敬されていた方である。「僕は嘉納ファンで、アンチ白樺なんだ」と、よく言っておられたことを記し、このように、我孫子は嘉納先生ファンの多い土地なので、是非、またお越し下さい、と結んだ。(同日)

以上のようなやりとりが契機となり、坪内さんと筆者とのメール通信が直接行われることとなったのである。それ故、坪内さんと筆者を結びつけてくれたのは、世田谷文学館友の会による我孫子文学散歩と、同会事務局の人々ということになる。

平成29年8月以降のメール通信の内容

以下は、8月に入ってから、坪内さんと筆者とのメールの交換である。

坪内さんが、秋の我孫子を再訪された際、お話を合おうよう「我孫子における嘉納治五郎先生」について勉強し分かったことなど簡単な内容である。

〈暑中お見舞い・我孫子に現存する嘉納先生の書類について〉

「力必達」、「以人為鏡(我孫子第一小学校)」、

「従善如流(角松旅館)」、「三樹荘(柳宗悦邸跡・現村山邸)などについて、筆者が知り得た事や、経験したことなどを簡単に。(8月8日・筆者から)

〈残暑お見舞い〉

4月8日の文学散歩の日、ひとり訪ねた我孫子第一小学校は外から見ただけなので、嘉納の書類は見えておらず、天神山緑地で、案内板にあったのを見ただけである。なお、子供の頃5年生の1学期まで同校に在籍していたが、校内に嘉納の書類があることを知らなかった。

今回の文学散歩をきっかけに、感想文(前出)が載った会報を、我孫子で隣に住んでいた親類と、うちが転居した後その家に住んだ親類に送つたと、とても懐かしがって、喜んでくれた。また、我孫子市と市民の方々が、治五郎たちをととても大事に思つて語り伝えてくれていることも喜んでくれた。

父や母が健在のうちに我孫子を訪ねていけば、父の思い出話も聞けたのになどと、自分の怠惰を後悔もしたが、今回、我孫子を訪問したことで、我孫子との縁が繋がつたとプラス評価した。(8月19日・坪内さんから)

【注記】

(注8)「榎西雄介氏のブログ」:

「大事なひと」2006.1.8作成のものを2008.3.25付で訂正補筆したものとの注記あり。榎西

氏の嘉納治五郎研究の原点は、ブログ本文中にある、氏自身の次の言葉に見出されると言えよう。

「因みに、私は昭和二十四年から一年間、灘中学校で学びました。当時の講堂には、「精力善用」

「自他共栄」という大きな横書きの書類がかかっており、生徒たちはその意味と併せて、それが本校を創立した嘉納治五郎先生が柔道の精神を校是として定めて自ら揮毫されたものであることを教わつたことでした。元より、嘉納治五郎への私の関心は、この記憶から出発しています。」
ご覧になりたい方は「こちら」。

<http://blogs.yahoo.co.jp/yuzan9224>

3、嘉納治五郎先生銅像建立の計画を知る

今秋(平成29年)の秋には、坪内さんが「我孫子を再訪したい」と希望されているので、この訪問を一過性のもに終わらせず、より継続性のあるものとし、坪内さんと我孫子との絆を、再び結び合わせることを出来ないものかと考えた。

そこで、8月25日、その具体的に良い方法の教示を得るべく、「我孫子の文化を守る会(注9)の美崎大洋会長に電話にて相談した。

すると、会長は大変驚きながら、次の事柄について話された。

「以前から、その機運が高まりつつあったが、つい最近、嘉納治五郎先生の銅像を制作し、天神山緑地(嘉納治五郎別荘跡)に建立することになった。

その趣旨は、「嘉納先生を我孫子の誇り、我孫子の大事な人」として顕彰するもので、おりしも、東京オリンピック・パラリンピックが2年後に開催されるので、時宜を得ている。

また、この顕彰活動は、主に我孫子市民によってなされることに意義があるので、「我孫子の文化を守る会」が中心となり、具体的な準備を進める。すでに、教育委員会にも相談しているので、坪内さんの我孫子再訪時に、是非お目にかかり、嘉納治五郎先生顕彰活動の詳細について説明させていただきたい。

「我孫子の文化を守る会」・「嘉納治五郎先生顕彰活動」について説明する

「我孫子の文化を守る会」は、昭和54年の我孫子市民有志による、志賀直哉邸跡保存運動に端を發し

て形成された会で、現在、我孫子市で最大規模の市民による生涯学習の会である。

我孫子の文化にかかわる様々なテーマを、会員それぞれが自由に選択し、学び、その学びの成果を発表・発信することで、地元への貢献を果たすことを主な活動の目的としている。

我孫子市教育委員会からの共催・後援などの協力を得て、年に一度、5月に大規模の文化講演会を開催。その他、会員自身による隔月の講演会（「放談くらぶ」も開かれ、毎回40名から50名ほどの参加者がある。

前述の楢西氏は、本会の熱心な会員であった。

2020年に本会は創立四十周年を迎えるが、嘉納治五郎先生の顕彰活動としての銅像建立は、その記念行事における、最も重要な活動になることと思われる。

（9月12日・嘉納治五郎先生銅像建立について筆者から坪内さんへ）

上記した、「我孫子の文化を守る会」と「顕彰活動」の詳細については、後日美崎会長から坪内さんに、直接説明させていただくことにし、坪内さんの我孫子再訪の日程について、10月とし、坪内さん、美崎会長、筆者の日程の調整を始める。

上記のメールに対して、坪内さんから次のような返信（9月15日）が送られて来た。

「父方の祖母が治五郎の娘という関係で、嘉納家の直系からは、だいぶ遠いところにおりますのに、我孫子と治五郎に関していろいろ教えていただき感謝、また恐縮にも思う。」

また、この度、銅像建立のお話を伺い驚きました。50年前のことですが、千駄ヶ谷の国立競技場前にあったレリーフ（今は建てかえ中ですがここにありますやらの）の除幕の紐を引いたのは、高三だった姉であった。そんなことを思い出した。

まずは、美崎会長さんにご挨拶をして、お話を伺いたいと思う。ついでには、会長さんのご都合を調整して欲しい。

それにしても、我孫子市民の皆様の知的好奇心、向学心、行動力、頭が下がります。」

この日までの、坪内さんと筆者との間で交わされたメールの内容を、美崎会長に送信。

9月16日、坪内さんから10月中の都合が送信される。これにより、美崎会長・坪内さん・筆者、三者の都合を勘案の上、10月12日（木）を面談の日とし、そのほか、4日の補助日を選定する。

また、当日のコースを次のように決めた。嘉納後楽農園跡の見学に始まり、角松旅館、大光寺、天神山緑地（嘉納治五郎別荘跡）を経て、我孫子第一小学校訪問（4月8日の文学散歩終了後、坪内さんはひとりで小学校を訪ねたが、外から眺めて思い出に浸っただけであった。さらに、小学校内にある嘉納先生の書額二点については、小学校時代は、学校にあることを知らなかったとのこと。天神山緑地の説明板にある解説で初めて知ったとのことである。それ故、今回は我孫子第一小学校訪問を本コースの目玉とした。

この計画に対して、「小学校訪問をコースに入れてくれた事に感謝。10月12日の第一候補日には、参加できるよう態勢を整えたい。なお、我孫子時代一緒に住んでいた姉は、孫が生まれるので不参加。勉強させていただき、後日、姉を案内したいと思う」とのメール（9月19日）が送られて来た。

9月20日、坪内さんからのメールを美崎会長へ転送。9月21日、美崎会長から「メールありがとう。お手数をおかけする」との返信あり。

【注記】

（注9）「我孫子の文化を守る会」昭和55年に設立された市民活動団体。

「我孫子の自然と文化遺産を守り、新しい文化の発展に資すること」を目的とし、この目的を達成するため

- ① 自然や史跡を保護する活動
- ② 新しい地域文化の発展のための活動を事業として行っている。

あびこだより 8号

嘉納治五郎をもっと知ろう！(その三)

— 生まれ故郷 神戸・灘 —

伊藤 一男

嘉納治五郎は嘉納家の三男として、一八六〇年（延元年）、摂津国御影村（現在の神戸市東灘区御影町）で生まれた。幼名を伸之助と称した。父・次郎作は近江坂本にある日吉大社の神官・生源寺家の出身であったが、若い頃から漢学や絵画に秀で、諸国遍歴の旅に出たりしていた。あるとき、御影村の酒造家・嘉納次作の家に逗留して、頼まれて『論語』の講義をするうちに、その人柄を見込まれ、次作の長女・定子の婿養子となり、嘉納次郎作と改名した。次作は次郎作に家督を継がせたが、次作には実子もなかったので、次郎作は敢えて酒造家としての家督は継がずに自らは外に出て、回漕業など手広く事業を営むようになった。

江戸と阪神を結んで日本初の洋式船舶による定期航路を開設し、軍艦奉行・勝海舟の命によって兵庫和田岬砲台の建設を請け負ったりしたのも嘉納次郎作であった。このように父・次郎作は幕府の仕事が忙しく、ほとんど家にはいなかったため、治五郎は幼年時代を母・定子と過すことが多かった。母は躰に厳しく、他人のために尽くすことを身をもって教えたといわれ、治五郎のその後の人生に大きな影響を与えたといえる。その母は、治五郎が八歳のときに亡くなった。父は治五郎の教育には熱心で、五歳の時から習字と経書を習わせていたが、母が亡くなったので、一八七〇年（明治三年）、九歳の治五郎を上京させた。このように嘉納治五郎は生まれ故郷の神戸・灘には僅か十年足らずの生い立ちの年月であったが、のちに柔道の祖として、また高邁な思想をもつ教育家として世界的に著名な人物になった。

（次号（最終回）に続く）

神戸市東灘区の御影公会堂では嘉納治五郎の功績を称えるため、昨年より嘉納治五郎記念コーナーを設けて貴重な各種資料や掛け軸・額などを展示し、さらに中央には世界で唯一となる柔道着姿の銅像が威風堂々と立っている。

嘉納財閥がつくった学校として、全国屈指の進学実績を誇るのが灘中・灘高である。灘中学校がつくられたのは一九二七年(昭和二年)であり、基金は嘉納財閥三家で用意されたが、学校全般の基礎づくりをしたのは嘉納治五郎であった。治五郎が柔道の精神として称えた「精力善用」「自他共栄」が校是となっている。また、設立の経緯から、現在でも中学校および高校一年次では柔道が全員必須となっている。

二〇二〇年の東京オリンピック開催を控え、ここ神戸・灘でも嘉納治五郎を顕彰する活動が盛んに行われている。

手賀沼流域フォーラム 〜川巡りと木下の史跡散歩にスタッフ として参加して〜

芦崎 敬己

去る十月十日、すつきりと、そして真つ青に晴わたる秋空の下、川巡りと木下史跡散歩のイベントが実施され、私は運営スタッフの一人として参加しました。

昨年のこの企画は、雨天により実施が見送られたので、二年振りとなりますが、十月十日は以前から晴の特異日といわれていた通り、今回は晴天に恵まれ実施に繋がりました。

このイベントは、手賀沼の魅力や環境について知る。ことにより、自然を守る大切さを広めることを目的に市民団体や流域七市(我孫子市・柏市・印西市・白井市・鎌ヶ谷市・流山市)及び手賀沼水環境保全協議会が手賀沼流域フォーラム実行委員会を構成し、協働しています。実行委員会を構成する「美しい手賀沼を愛する市民の連合会」に参加している当会が、以前からのイベントの企画・運営を行っています。

当日は、木下駅から程近い印西市中央公民館に集合しました。欠席者が一名いましたが、自分は抽選で当選したと勘違いした参加者が一名来て、一般参加者十八名、スタッフ四名の計二十二名(男性九名、女性十三名)で実行されました。



川巡りは、参加者から参加費一、一〇〇円を徴収し、公民館裏手の渡船場から十一名ずつの二艘の屋形船に乗船して、十二時に出航。船上見学は、弁天川手賀川、下手賀川、六軒川と移動し、景色を楽しみながら外来植物など環境保全の状況を聞きました。(写真は船中の様子)

この間、船弁当の豪華な昼食を摂りながら木下や利根川にまつわる水運の歴史、手賀沼干拓と新田開発の歴史、木下の染め物の発展と文化などの話について印西観光協会紹介の船頭さんからウイットに富んだ面白い説明を聞きました。特に、水屋(みずか)と言われる母屋とは別に建てられた家屋があり、洪水の際に活用する先人達の知恵には、大いに驚かされました。実際にまだ数件残っているようで、今度機会があったら是非見てみたいと思いました。参加者の皆さんからもとても楽しいと口々に感想が漏れていました。

船を降りての木下史跡散歩は、印西ふるさと案内人協会の三人のガイドさんから手賀沼排水機場、十一面観音立像を祀る上町観音堂、木下万葉公園の貝層、印西市木下交流の杜歴史資料センターの案内とともに、楽しく説明を聞きました。手賀沼排水機場の六台のポンプがフル稼働すると二十五メートルプールが十秒で一杯になるほどのパワーがあるとのこと、手賀沼の水害防止が私達の生活の安心と安全に直結しているのだと改めて感謝の気持ちが湧いてきました。

木下万葉公園にある



国の天然記念物に指定された木下貝層は、貝塚ではなく、貝を含んだ海底の地層が隆起し、一部が地層から露出したもので、それを目の前で観察できました。手賀沼を含むこの辺りが、かつて、約十二万年前に広大な内湾だったことを物語るものとして実感できる場所だと思いました。歴史資料センターが建つ小高い丘は以前に印西高校があった場所、センターは印西市の郷土資料館です。ここで休憩を兼ねて見学しましたが、資料も良くまとめられていた見やすい資料館で、我孫子市にもこの様な郷土資料館があることが歴史・文化の理解のためにも郷土愛を育むためにも大いに期待されると思います。

史跡散歩はどなたもケガなく、無事に三時半に終了し、木下駅で解散しました。私も初めて参加し、スタッフとして運営の補助も行いましたが、こうした歴史散歩が一層楽しくなりました。益々我孫子や近隣との文化的な繋がりが面白くなってきました。(写真右、手賀沼排水機場、左、木下貝層)

- ◆振込口座名 嘉納治五郎銅像建立基金
- 郵便局 口座記号番号 00290 1 6 1 39276
- 京葉銀行我孫子支店、普通預金、口座番号 3255211
- 千葉銀行我孫子支店、普通預金、口座番号 3830922
- 千葉興業銀行我孫子支店、普通預金
- 口座番号 1129816

「短歌の会」

(第十三回(九月二十五日)最終選択作品)

寺を出で真夏真昼の世にもどれば
むむつと風の首を撫でゆく

納見 美恵子

朝早く霧雨の降る我が庭に
えさを欲しがらる雉鳩の声

飯高 美和子

節約の誓いを破りこの夏は
終日冷房の贅沢をせし

山崎 日出男

知らぬ間にぬつと出でたる彼岸花
はなの乏しき庭を彩る

村上 智雅子

ありし日の父の自慢はほめられし
戦艦長門艦上大号令

佐々木 侑

ガン手術十日後その医者言ひ放つ
「ガンじゃなかった、良かったじゃない」

美崎 大洋

食ふ物の日々満ち足りて家ごとに
車持てるは幸せなるか

三谷 和夫

平静を装ふ心暴かるる
俵万智なる短歌の世界

藤川 綾乃

子供を連れ登りし穂高に求めたる
ネーム入カップ今朝も眺めつ

藤井 吉彌

(以上9名分)

我孫子の巨木・名木を訪ねる会

「樹木観察会報告」第20回

【場所・小石川植物園】実施日・十月十九日(金)

稲葉 義行

第19回の観察会が雨により中止になったので、久しぶりの観察会となりました。当日は、雨降りの予報でしたが、曇り空の下総勢七名で実施しました。

「小石川植物園」は貞享元年(一六八四年)に徳川幕府が設けた「小石川薬園」に源を発する日本最古の植物園です。

この時期は、花の咲いている木は少ない中で、正門を入った右側に酔芙蓉が赤と白の花を付けきれいに咲いていました。坂を上った本館前には太い枝を四方に広げた幹回り数メートルもあるうかという「ヒマラヤスギ」がありました。

その先には、遺伝学の基礎を築いたメンデルが実験に用いた葡萄や物理学者ニュートンが、リンゴが木から落ちるのを見て、「万有引力の法則」を発見したという逸話で有名な木を接木によって科学に関係ある施設に分譲したもので、「小石川植物園」にあるものは昭和三十九年に英国物理学研究所から贈られた木を接木したものです。

売店傍の植物分類標本園には約五百種の植物が植えてあり、食虫植物のハイプカズラが花を咲かせていました。

その奥には、ハンカチノキ、ニンジンボク、スズカケノキ、チューリップの様な花を付ける「ユリノキ」、幹に乳房の様なコブが出ている「オガタマノキ」や菩提樹の並木、サイカチの木、杉・桧林があり、カリンの木には大きな実がいつばいつばついていました。

園の西北角には、現在は東京大学の「総合研究博物館小石川分館」となっている旧東京医学校本館があり、そこからは遠州派の流れをくむ造園家が作庭した日本庭園となり、約五十種百株あまりの梅林があり、萩園には赤い萩の花が満開となっていました。斜面にはメグスリノキが、池の周囲にはヌマリズキ、ラクウショウ

ウ、ハナキササゲやミズカンナ等があり、出口近くにはメタセコイアの並木、ハンノキの並木があり、これ程多種類の植物を一施設で見られ大変有意義な観察会でした。ただ、残念なことは、二度の台風で高木の枝が折れたり、塩害で楓等の葉が茶色く枯れてしまったこととです。

春には桜、つつじ、シヤクヤク等、夏には夾竹桃、紫陽花、百日紅の花等が園内いっぱい咲き競い、私達の目を楽しませてくれることと思います。

我孫子の巨木・名木を訪ねる会

「樹木観察会」第20回小石川植物園・実施報告」

実施日十月十九日(金)

佐々木 侑

前回の第19回つくば植物園の樹木観察会は雨による荒天で中止となった。今回の観察会は、秋晴れとは言えない曇り空の中であったが、雨に降られることもなく小石川植物園において樹木観察会が楽しく実施された。参加者は7名(内女性1名)であった。

小石川植物園は「東京大学付属植物園」で植物学の研究・教育を目的とする教育実習施設である。この植物園は日本最古であるばかりでなく世界でも有数の歴史を持つ植物園の一つで、今から約三百年前の貞享元年(一六八四)に徳川幕府が当地に設けた「小石川薬園」に源を発している。園内には長い歴史を物語る数多くの由緒ある植物や遺構が今も残っており、2012年には国の史跡・名勝に指定された。

観察した樹木は「こ」には紹介しきれないため、主な樹木・草本と遺構を写真とともに紹介する。

*ニュートンのリンゴの木

植物園の木は昭和39年(一九六四)に英国物理学研究所から日本に贈られた枝を接ぎ木したもの。本園から日本国内の研究や植物園、学校などに接ぎ穂が分譲され、「科学の心を育てる記念樹」として親しまれている。

*パイプカズラ



甘藷試作跡

***甘藷試作跡**
青木昆陽(通称甘藷先生)は、飢饉の時の食料作物としても役立つと考え、享保二十(一七三五)年に幕府に進言し許可を得て、この地で栽培を試みた。
***ボダイジュ**



旧養生所の井戸

***旧養生所の井戸**
小石川養生所は町医者小川箆船の意見により、貧困者のための施療所として、享保七年(一七三三)につくられた。この養生所の井戸は現在も水質が良く、水量も豊かである。
***クスノキ**



ニュートンのリンゴの木



ボダイジュ



クスノキ



パイパカズラ



スズカケノキ

***スズカケノキ**：スズカケの区別、説明板より
スズカケノキ：別名プラタナス、果実は一本の軸に3〜7個つき葉の切れ込みがはつきり入る。
モミジバズカケ：スズカケとアメリカの雑種、果実は軸に2〜3個つき葉は大きく3つに裂け切れ込む。
アメリカスズカケ：樹皮は暗褐色ではがれない。葉は浅めの切れ込みで、果実は枝先に1個つく。



オガタマノキ

***オガタマノキ**
・オガタマの実



オガタマの実



旧東京医学校本館

***旧東京医学校本館(国の重要文化財)**
東京大学関係の現存する最古の建物、明治九年(一八七六)に建築されたもので昭和44年(一九六九)に本郷構内より移された。
***ハグマノキ(スモークツリー)**
「白熊の木」は、ヤク(白熊)の尾の毛を束ねてつくられ



ハグマノキ(スモークツリー)

た仏具の払子(ほつす)に似ていることから。
***フクロミモクゲンジ**
実はピンク色の袋の形になる。実の中の種子は丸く黒く数珠にも使われる。



フクロミモクゲンジ

第132回史跡文学散歩のお知らせ
「紅葉の小石川後楽園と講道館を訪ねる」

前回の9月30日の「西浅草と講道館発祥の地を訪ねる」は台風のため中止になりました。
今回は小石川後楽園、講道館を訪ねます。講道館前に建つ嘉納先生の銅像は当会が建てようとしているものと同じものです(文化勲章受章者・朝倉文夫作)。

小石川後楽園から遠くない処に伝通院があります。山門が再建され新しくなった伝通院は芝増上寺・上野寛永寺と並ぶ徳川家の菩提寺で、著名人の墓地が数多くあります。是非ご参加ください。

1. 日時 11月23日(金・祭) 9時、我孫子駅改札口内集合。(小雨決行) 15時頃現地解散予定。
2. コース JR水道橋一講道館一小石川後楽園一伝通院(千姫ほか徳川夫人達の墓、佐藤春夫、橋本明治、柴田鍊三郎など文人の墓多数など)
3. 講師・ガイド 越岡禮子氏(当会副会長)
4. 参加費 会員 無料、非会員 500円
5. 申し込み TEL&FAX(七七八四)二〇四七

文学掲示板

平成三十一年一月展示作品(文学の広場)

刻刻と色変はりゆく夕日影

飽くなく見しが今日のように

和歌山 湊 ヤス子

霞立つ沼の畔の樟の

青糸揚羽に亡き人おもほゆ

我孫子 佐々木 侑

酔へる義父息子の選びし娘向け

「お眼が高い」とはよくぞ言たり

我孫子 美崎 大洋

右折車に触れわが自転車は転倒す

心急ぎたる出勤の朝

東京 清野 八枝

電車過ぎし風に揺れるる穂芒に

差す夕光の冷たくなりぬ

所沢 蒲田 トシエ

蓮の浮葉沼面おほひて花もなく

めぐる足音吸はるる静けさ

我孫子 大島 光子

楚人冠俳句「序跋詩歌集」より 杉村楚人冠

昭和八年

池渡す小橋朽ちをり雲(みぞれ)ふる

行燈の燈心黒き時雨かな

踏切に皆ぬれてゐる時雨かな

寒風や驛上屋のこぼれ米

山峡に鳥羽羽束師や罨の霜

松風の聞えずなりし時雨かな

時雨るゝやかゝる時かゝ彼なりし

今後の行事予定

第132回史跡文学散歩のお知らせ

「紅葉の小石川後楽園と講道館を訪ねる」

日時 11月23(金) 9時、我孫子駅改札口内集合

(小雨決行)

15時頃現地解散予定

講師・ガイド 越岡禮子氏(当会副会長)

参加費 会員 無料、非会員 500円

申し込み TEL& FAX (7184) 2047 越岡まで

(内容・詳細は7ページ参照ください)。

平成30年度統一クリーンデー

日時 12月2日(日) 9時から11時まで

集合場所 手賀沼公園多目的広場

集合時刻 8時30分から8時55分

内容・詳細は1ページ参照

「放談」の会

日時 12月16日(日) 14時〜16時

会場 けやきプラザ(南近隣センター) 8階第1会議室

講師 伊藤 一男氏(当会副会長)

演題 嘉納治五郎をもっと知ろう！(その三)

―生まれ故郷 神戸・灘―

◎参加費 会員無料 非会員三〇〇円

申込み TEL& FAX (七) 一八五〇六七五 佐々木まで

(講演概要については4ページ「あびこ」日より84

号」を参照ください)

プロジェクト「巨木クラブ」予定

「樹木観察会」

第21回 11月16日(金)

印西鳥見神社・長楽寺周辺巨木

我孫子駅改札 集合→我孫子駅 成田

線木下 3:00→レインポーバスで「大森坂上」→印

西鳥見神社→長楽寺→レインポーバスで「大森坂

上」→木下駅→我孫子駅

(近辺には食事処はないので、各自弁当または軽食を持参のこと)

プロジェクト「短歌の会」予定

11月28日(水) 13時〜第十四回短歌の会

けやきプラザ10階小会議室

講道館が平成30年

「嘉納治五郎師範生誕祭」を実施

昨年に続き講道館では10月25日(木)〜28日

(日)の期間で嘉納治五郎師範生誕祭を実施した。

期間中のイベントとして、師範あての名士の書簡

を特別展示するほか、オリンピック関連資料公開、

スタンプリリー、親子柔道教室などを行なった。

また10月28日には「嘉納治五郎師範とオリンピック

ク」のテーマで記念講演・シンポジウムも行った。

於・文京シビックセンター小ホール。内容は以下。

・記念講演

「マラソン日本の復活―1912ストックホルムから

2020東京へ―」

尾懸貞氏(筑波大学・日本陸上競技連盟専務理事)

「東京オリンピックと嘉納治五郎師範」

真田久教授(筑波大学)

・シンポジウム

谷本歩美氏(コマツ・オリンピック金メダル(アテネ・

北京))

上野順恵氏(三井住友海上・オリンピック銀メダリ

スト(ロンドン))

司会 向井幹博氏(講道館同上指導部)

編集後記

今年9月、テニスの全米オープンで大坂なおみ選手が優勝し、日本人初のグランドスラム(四大大会)シグナス優勝者となった。男性の錦織圭選手もあと二歩のところまできている。つい最近までテニスの世界で日本人が優勝することなど考えられなかった▲テニス以外でも卓球、バドミントン、ヒギュラスケートなど日本人の活躍が目立つ。しかしいずれも個人競技での躍進だ。一方、団体競技のラグビー、サッカー、バスケットなどでは欧米に敵わないのが現状。欧米人の個人主義に対し、日本人は集団主義と言われるがスポーツではその通りではないようだ。(美崎)